

7-6 岡山県におけるてんかん診療 てんかん地域診療連携整備事業 3年間の

まとめ

岡山大学病院てんかんセンター・発達神経病態学（小児神経科） 秋山倫之

まとめ

- ・てんかん地域診療連携整備事業により、てんかん診療に対する多職種、医療施設間の連携に対する意識が高まった。てんかんだけでなく、移行医療にも貢献した。
- ・行政との連携により、啓発活動がより円滑に進められるようになった。
- ・出張講義など地域連携推進のための様々な手法を模索中であるが、多地点接続サーバーを用いたてんかん症例 TV カンファレンスは有用である。

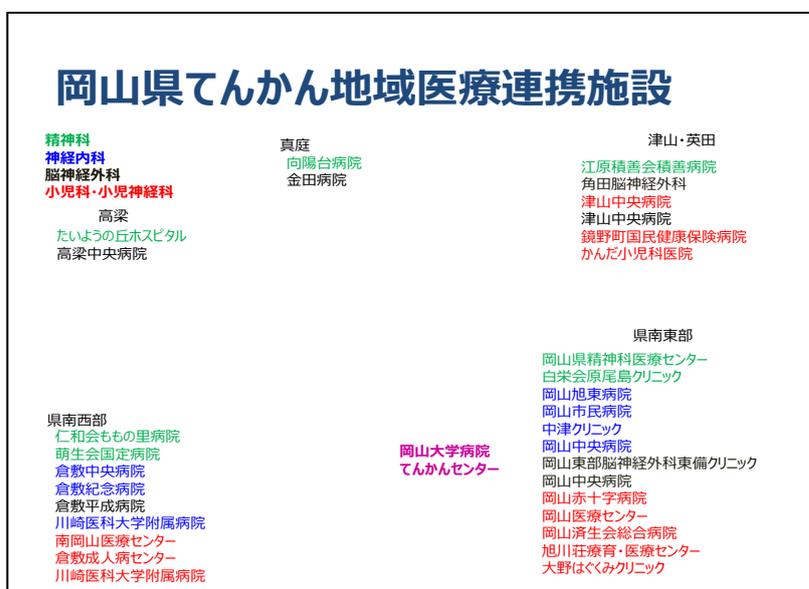
1. 概要

岡山県では、てんかん地域医療連携施設の偏在と移行医療が問題であり、多職種、医療施設間の連携のための研修と啓発活動を行い、また出張講義と多地点接続サーバーを用いたてんかん症例 TV カンファレンスを行っている。てんかん相談窓口は、てんかんだけでなく移行医療にも機能した。

2. てんかん地域診療連携整備事業

1) てんかん地域医療連携施設の偏在への対応

岡山県では 5 つの二次医療圏があり、てんかんの二次連携医療施設もかなりあるが、県の北部は二次医療施設が少なく、医療過疎地になっているだけでなく、交通事情のためてんかんセンター受診が困難である。これに対し、出張講義と多地点接続サーバーを用いたてんかん症例 TV カンファレンスを行った。



2) てんかん研修

毎年、小児デジタル脳波ハンズオンセミナーを行い全国から多くの医師が参加している。てんかんセンター外科カンファレンスは月に1-2回開かれ、院内の多くの部門だけでなく、院外からも参加している。てんかん症例TVカンファレンスも始めている。

3) 啓発活動

一般に対する市民講座、看護師や保育士などに対する研修会を行っている。

4) 相談窓口

岡山大学病院のてんかんコーディネーターは2名で、小児医療専門看護師1名(常勤、併任)は重症心身障害児・者に対し、小児神経科や小児外科受診時に生活全般の支援を、社会福祉士1名(常勤、併任)は総合患者支援センター(てんかんセンター相談窓口)にて、社会保障制度、移行医療、就職等の社会福祉的諸問題に関し相談業務を担当している。

看護師の相談件数は月平均30件で、相談者は家族、医療者、学校関係者で、最も多い相談者は家族であり、相談・対応内容は、家族の支援、成人科への移行の準備と支援、他施設への円滑な移行のための連携であった。社会福祉士の相談件数は月平均5.2件で、相談者は患者本人、家族、医療者、学校関係者で、最も多い相談者は家族であり、相談・対応内容は、てんかんセンターの受診方法、疾患や薬、社会保障制度、移行医療、就職、運転免許、患者会について等であった。

5) 拠点機関の診療指標の推移

てんかんセンターが設立されてからてんかん外科の手術数が4-5倍に増え、良好な手術成績を得ている。



研修・啓発活動

活動	題	対象
第24回精神保健てんかん県民講座	てんかんとはどんな病気? その基本から日常生活まで	一般
岡山大学公開講座 岡山健康講座 2016-やさしい保健と健康の話-	脳波は頭の電気活動	一般
てんかん協会岡山支部市民公開講座	大人のてんかん、子供のてんかん	一般
岡山県病児保育協議会研修会 教育講演	子どものけいれんとてんかん	保育士
てんかんセンターカンファレンス	ケトン食療法	栄養士、医療関係者
日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会 中国四国支部学術大会	てんかんの病態と薬物治療	薬剤師、医療関係者

活動	題	対象
てんかん県民公開講座	心とてんかん	一般
岡山てんかんフォーラム	治療と生活：ライフステージに沿った取り組み	一般
てんかんセンターカンファレンス	てんかん発作への対処法と危機管理	看護師、医療関係者
てんかんセンターカンファレンス	てんかん・けいれんと保育・療育	保育士、支援員等、保育・療育に関わる方

3. 成果と課題

てんかん地域診療連携整備事業により、多職種、医療施設間の連携意識が高まり、行政との連携により啓発活動がより円滑に進められるようになった。地域連携推進のための様々な手法を模索している。